



滋賀県断酒同友会

発行人 西 浦 正

事務局 湖南市柑子袋1091-30

TEL 0748-72-3792

印刷所 (有)中嶋印刷所



新年度を迎えて

会長 西 浦 正

4月、木々が芽吹き、人のいとなみも、春の息吹に活気づく季節となりました。当会も発足以来41年目の新年度を迎えることになります。本年の活動方針テーマは昨年に引き続き「自覚・自立・前進」サブテーマ「断酒そして感謝」に決定されました。10年連続の活動方針テーマですが、会員家族一人ひとりがこの活動方針テーマを心に刻み活動して頂きたいと思います。

私は昭和61年に39歳でアルコール専門病院を退院後、滋賀県断酒同友会栗東支部に入会しました。入会当時、同友会の例会場も本部例会、彦根支部、草津支部、八日市支部、大津支部、栗東(栗太)支部、甲賀支部の6支部が既に開設され、入会した年に近江八幡支部、堅田支部が支部として独立して発足運営を開始されました。入会はしたものの酒を止められるか、止めていけるのか不安な毎日でした。入会時に、先輩が「例会に通えば止めていける。例会出席、一日断酒だ!」と励まして頂き、例会に通うことを自分に課して通っていました。仕事を終えて通える、開いている例会場が毎日のようにあることを大変ありがたく感じました。酒害体験は上手く話せませんでしたが、体験談を聴く中で依存症である事を自覚し、「止めねば」と心に刻んだ事が思い起こされます。

今年は桜の花が4月の始めに満開になり、桜色に染まる景色に感動すら覚えます。就職して初めての酒の行事は独身寮の花見でした。会場は高槻に工場がありましたので、山の手、清らかな水流のある摂津峡でした。初めての飲み会で酒が強いと言われました。

36歳でアルコール性肝炎に罹り入院しました。退院後40日ほどやめていた酒も缶ビール1本を手につけ、1週間で元の酒の量になりました。今迄、「酒は飲むが仕事は絶対に休まない」と誇っていた酒が、飲み過ぎて会社を休むような酒になっていました。上司からは酒は控えるようにと再三注意を受けるようになっていました。重要な仕事からは外される。益々酒の深みにはまっていきました。仕事が出来ない、酒の力を借りなければ何もできない。反動で落ち込む、生きているのが苦痛に感じられるようになっていました。幸いなことに会社で飲酒問題を起こし、上司の勧めで治療を受け、断酒会に入会できたことに感謝しています。

今年度も一人ひとりが例会を大事に、仲間を大事に活動して行きましょう。

最後になりますが、5月3日の滋賀県断酒同友会41周年記念例会を会員、家族の皆さんと一緒に結集、準備して成功させましょう。